

⑤ 依頼製作

受託年月	完成年月	件名	数	依頼者	製作担当者等
14・2	14・3	花盛器	1個	馬政局	石田 英一 黒川 義勝
14・2	14・3	ハルビン高等女学校記念 八稜鐘及び台座	1個	香田 勝太	図案 森田 武 製作 渡辺 顕 台座 山崎寛太郎
14・4	14・5	賞牌	9個	日本学術協会 西成甫	佐藤 省吾
14・10	14・10	花盛器	3個	馬政局	外箱等 石田 英一 黒川 義勝

⑥ 学校行事 『東京美術』第十八号。S・一五・二一・一八^年月^日

〔昭和十四年度〕

○大成丸遠洋航海便乗

本校油畫科四年生元田乾行君東京高等商船學校練習船ホノル、向遠洋航海ニ乗組許可セラレ六月二十一日東京出港ホノル、九日間碇泊全船行程九一四哩ヲ經十月二日東京歸航行中乗組生徒ノ作業ノ一部ヲ修得其ノ餘暇ニ寫生寫眞ノ撮影等ヲナシ海事思想ノ涵養海洋研究等ヲ體驗ス。

○大成丸遠洋航海便乗

前載練習船出帆ノ途次本校建築科四年生高田秀三君横濱清水間沿海航海ニ便乗方許可セラレ商船學校教育狀況練習生ノ實習等ヲ

見學セリ。

○大阪商船株式會社新造船アルゼンチナ丸六月二十三日見學。

○勤勞作業實施(全校職員生徒參加)

十四年七月五日(水)ヨリ九日(日)マデ五日間、京王沿線、與亞青年訓練所及調布飛行場ニ於テ全校職員生徒ノ勤勞作業ヲ行フ、毎日午前八時新宿集合午後四時作業ヲ終ヘ新宿ニテ解散。與亞青年訓練所ニ於テハ田畑ノ除草土ナラシ、水田ノ苗植、等ヲ三日間(内一日ハ訓練所ニ宿泊)調布飛行場ニ於テハ主トシテ除草地均ラシヲナス。學生勤勞奉仕ノ本校ニ於ケル第二年目ノ行事ナリ。第二回十二月二十六日ヨリ三日間、學校構内ニ於テ前回缺席者作業實施ス。

○専門學校生徒海軍訓練參加

本校生徒十名指導教官一名ニ引率サレ十月十二日午後十一時東京發翌十三日午時六時清水港^棧機橋集合八時軍艦迅鯨へ便乗シ横須賀へ向ケ出港航々中艦長ノ挨拶、艦内及作業ノ狀況、教練ノ見學軍歌ノ實習軍事講話ヲ了リ午後五時横須賀軍港入港退艦ス。

○觀兵式^{マツ}の拜觀

〔十五年〕一月八日陸軍始觀兵式ニ全校生徒列席。

⑦ 比田井天来の死去と後任石橋厚水

昭和十四年一月四日、図画師範科「習字」授業講師比田井天来が死去した。六十八歳であった。死去の二年前に大日本書道院を創立し、また、帝国芸術院会員となつた天来には門人が多く、一月八日に自宅で行われた葬儀には二千余人もの参列者があり、本校図画師

範科の生徒たちも参列した。遺骸は鎌倉の華藏院に埋葬され、郷里に本墓が建立された。

同年三月三十一日、天来の後任に門人の石橋犀水（本名啓十郎）が採用され、図画師範科第一（第三年の「習字」（毎週三時間）を比田井小琴とともに担当することとなった。犀水は明治二十九年一月九日に福岡県築上郡吉富村矢方に生まれ、広島高等師範学校、広島文理科大学を卒業した。大正六年より天来の門人となり、九州書学院、鯉城書道会を創設し、広島高等師範および広島陸軍幼年学校の教師をつとめていた。彼は第二次大戦後に日展出品作家、新潟大学および二松学舎教授、文学博士、全日本書道教育協会理事および会長、日本書道芸術専門学校（扶桑学園）校長として活躍し、書道界の第一人者と目されるに至った。平成五年二月十五日に死去。その業績については『書学』第五二三号、第五二四・五二五号合併号（平成五年十月、十二月）の石橋犀水追悼特集に詳しく記されている。なお、昭和三十七年まで掲げられていた「東京芸術大学」の木額（芸術資料館蔵）は犀水の筆に成るもので、各地の石碑にも彼の筆跡が留められている。

⑧ 原田謹次郎に講師嘱託

昭和十四年四月十五日、本校は原田謹次郎（号尾山）に講師（東洋文学授業週二時間担任）を嘱託した。原田は明治十五年七月十八日愛知県に生まれ、同四十年本校漆工科を卒業した。同四十一年三月から一年間、中国福建工芸学堂の教師をつとめ、大正三年から同十一年の間、中国各地の美術を調査、研究し、同十四年には大東文

化協会幹事となり、昭和三年四月から同七年三月にかけて外務省文化事業部の助成により日本に現存する中国法書、名画の調査に従事、同七年七月から同十二年三月にかけて同部の助成により中国画論の研究に従事した。同八年四月からは大東文化学院講師（東洋美術史担任）を、また、同十四年二月からは東京帝室博物館事務嘱託の職に就いていた。自筆履歴書（本学蔵）には昭和十四年四月現在までの著述が次のように記されている。

著作概目

- 一大東美術全十二輯 大正十四年至昭和二年 大東美術振興會發行
- 一支那繪畫史一卷 昭和六年 萬里閣發行大支那大系本
溝口禎次郎ト共著
- 一支那南畫大成全二十二卷 昭和六年 興文社發行
河井荃廬外二人ト共撰
- 一支那名畫寶鑑一卷 昭和十一年 大塚巧藝社發行
- 一日本現在支那名畫目錄一卷 昭和十三年 大塚巧藝社發行
- 一支那畫學書解題一卷 昭和十三年 大塚巧藝社發行
- 一支那畫學總論第一輯 昭和十三年 大塚巧藝社發行
編輯執筆中

⑨ 山脇洋二の採用

昭和十四年五月八日、山脇洋二が教務嘱託（彫金部勤務）となった。山脇は明治四十年十二月二日、東京に生まれ、昭和五年本校金工科彫金部を卒業し、同九年以降東京帝室博物館研究生として古代彫金模造に従事していた。なお、同六年より帝展、次いで文展に入選を続け、第二回文展において「龍文之亀置物」が特選となった。